

日本水大賞「国際貢献賞」受賞報告

まちづくり・防災グループ 佐治 史
日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局一同

1. 受賞の喜び

当研究所が、株式会社建設技術研究所と共同運営する日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) は、この度第 20 回日本水大賞の「国際貢献賞」の栄誉を賜りました。

2006 年 11 月の設立以降、JRRN が国内外の川づくりの担い手の皆さんと共に取組み、河川再生に関わる国内外の情報を共有し、合わせて多くの方々と交流してきたことが「日本及びアジアの河川再生の担い手をつなぐ協働基盤を構築した」として評価頂いたものです。これもひとえに、皆様方のご指導を頂き協働してきた成果と、感謝致します。

2. JRRN の多方面にわたる活動と未来

JRRN は、「川づくりは人づくり」であることを意識し、河川再生の協働基盤の構築を目標としています。そのために、国内のみならず、日本・中国・韓国などで構成される「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」の日本窓口も努めています。日本のみならず多くの地域で活躍される皆様の活動を相互に繋ぎ、さらに発展させることが私たちの目標です。皆様方の活動や成果を 1 人でも多くの方々が共有し、それぞれの活動に生かして頂けるように情報発信していきたいと取り組んでいます。ネットワークの「触媒的機能」が皆様のお役に立ち、さらなる推進力になるようにこれからも活動して参ります。

国内外の河川再生の担い手が繋がり、河川再生に向けて新たな行動を起こす人材を増やし育成することや、アジアに向けては、毎年開催する国際フォーラムや海外視察団の受入支援を通じて日本が培った経験の普及並びに各国の最新の政策や取組に関する情報共有を進めていきます。さらに国内では、河川再生に関わる情報共有ツール（ホー

ムページ、刊行物）の整備や産官学民を交えた講演会や研修行事等を開催して参ります。

3. さらなる活動の展開に向けて

これまで JRRN が取組んできたあらゆる活動は、川づくりに関わる地域の担い手、国内外の専門家、河川を管理する行政関係者等のたくさんの方々のご支援により成り立ってきたものです。

この度の受賞を更なる励みとして、今後も国内活動と国際貢献を有機的に連動させながら、地域が主体となる持続可能な河川の管理に資する諸活動を後押し、その担い手を育成するための知見や技術の汎用化とその普及に努めてまいります。また、河川再生に関わるアジアのネットワーク活動のハブ機能を JRRN が担い、日本の河川再生の成功や失敗の経験を謙虚に海外に伝承しながら、川づくりを通じてアジア諸国との更なる友好関係の構築に貢献していきたいと考えています。

今後とも、JRRN へのご支援とご協力をどうぞよろしくお願い致します。



図2 JRRN による受賞活動発表



図1 河川再生の現場実習



図3 受賞記念撮影